

さいえんすかふえ・えねるぎいっ亭  
9月15日定例会  
2026年に京都LRTを

9月のサイエンスカフェ（千年文化を考える会主催定例会）のお知らせです。

9月のサイエンスカフェは、9月15日午後3時より、京都えねるぎいっ亭で、表記のテーマ「2026年に京都LRTを」で行います。

京都にLRTをという主張は、京都えねるぎいっ亭で繰り返してきた主題です。これには自然エネルギーに支えられる未来社会を構築するという大きな目的がバックにあることも、ご説明してきました。

このチラシの裏にあるように、最近になって、京大グループの研究を知りました。その研究によると2025～2027年の間に大きな歴史の分岐点があるそうです。その分岐点で地域分散型社会へと、大きく舵を切らないと、日本社会は持続可能にはならないと言います。日立京大ラボで検索すれば見つかります。これを受けて、このチラシの裏にあるようなメッセージを作成しました。裏をご覧ください。

2026年は福島原発後15年になる年です。奇しくも明治維新は黒船ショックの15年後でした。現在は福島後8年。黒船後8年には、まだ竜馬も脱藩せず、西郷は島流しに会っていたときです。そのころ幕府が倒れるとは、誰も思っていなかったでしょう。

明治以前の日本は藩を基盤とする極度の地方分散型の国でした。明治以降の近代化の流れで、急速に都市集中が進みました。それは欧米列強に追いつくために仕方ないことでした。しかし都市集中社会は急速な発展のためにはよかったです。持続社会としては失格であることが京大グループのシミュレーションで解明したわけですが、都市集中は自然エネルギーで支えられる社会ではないと、えねるぎいっ亭でも常に主張してきたことです。自然エネルギーは分散していますから。

2026年奇しくも福島ショック後15年、京大グループが解明してくれた、持続社会へ舵を切るための分岐点になる年です。京都は維新の時も重要な舞台となりました。再び歴史の大きな転換点を迎えようとしている現在、京都にLRTを導入し、持続社会への議論を深め、京都から地域分散型社会への流れを発信していこうではないですか？ シミュレーションで素晴らしい成果を上げた京大グループ、LRTを京都にと長年活動してきた地元のグループ、そして微力ながらエネルギーの観点からの持続社会の在り方を長年考えてきた千年文化を考える会、京都にあるそれらの力を結集し、地域から現代の志士たちを京都に集めれば、2026年に大きな歴史の曲がり角を作り出すことが可能だと考えます。

今回はエネルギーの観点から、何故LRTなのかをおさらいをし、京都LRTを端緒として持続社会へ協力関係構築の可能性を、来客の皆様と意見交換したいと思います。

次回さいえんすかふえ・えねるぎいっ亭

日時：2019年9月15日午後3時～

場所：京都えねるぎいっ亭（京都市左京区田中高原町12）

カフェお代 一般2,000円 学生1,500円

お問い合わせ NPO法人千年文化を考える会 HP「千年文化」で検索

電話 075-707-3737

## 2026年に京都LRTを

2026年にLRTを京都に導入しましょう。LRTとは路面電車です。ヨーロッパを中心に多くの都市で、市民の主な足として活躍している、未来志向の乗り物です。LRTが走り、自動車が排除された道路空間は、トランジットモールと呼ばれ、人中心の活気に満ちながらも、落ち着いた空間になります。人々はゆったりと外食やショッピングを楽しみ、子供も老人も自動車に悩まされることはありません。

何故2026年なのか、それは後回しにして、何故LRT導入を主張しているか、それを書きましょう。多くの人は何故路面電車をわざわざ導入しなければならないのだ、自動車があるじゃないかと思うでしょうからね。でも忘れてはいけません。自動車はガソリンがなくては走りません。電気自動車も水素自動車も掛け声だけで、さほど普及していないでしょう。ガソリン車のようにガンガン走ることは、未来永劫無いでしょう。有限な石油が不足するようになれば、車に頼り切った町は、やっていけなくなります。

福島原発事故はショックでした。それ以来私は一物理学徒として、エネルギー問題について、根本から考えてきました。そして結論は実に簡単なことに気づきました。今から始めて、徐々に自然エネルギーに支えられる社会を築いていけば良いのです。何故なら石油が不足してきたとき、人類が頼るエネルギーは、唯一自然エネルギーになりますから。ただ小泉元首相らが言うように、単なる自然エネルギー導入は成功しません。何故なら、現代社会は自然エネルギーで支えることはできないからです。例えば東京一極集中は、自然エネルギー社会ではありえないことになります。また自動車氾濫社会も。

自然エネルギー社会では、街の主要な交通手段はLRTになります。

現代社会はエネルギーの観点からは持続可能社会ではないのです。エネルギーだけ考えても、という意見もありそうですが。AIを使って日本の未来を予測したグループが京大にあります。京大の広井良典教授と、日立京大ラボの共同研究です。AIを使ったシミュレーションの結果、研究の主たる結論は次のようになりました。2025～2027年に、日本の歴史に大きな分岐点が来る。その分岐の一つをたどると、日本は都市集中型になるし、他方をたどると地方分散型になる。それ以降の時期に、両者が交わることはない。そして都市集中型をたどれば、日本社会は壊滅的な打撃を受けることになる。格差や人口問題、それに人々の健康など、持続できない段階に2050年には陥っているだろうから。怖いと思いませんか？

地方分散型社会の象徴がLRTです。2026年にLRTを京都に導入し、それを各地に広め、地方分散型社会創出に大きく貢献しようというわけです。日本の未来のために。ちなみに2026年は原発事故から15年後になります。19世紀の半ば、日本は黒船ショックを受けました。黒船から15年後、明治維新によって日本は大きく時代の流れを変えました。2026年、日本はまた歴史の流れを大きく変えるでしょう。

NPO 法人千年文化を考える会代表

小池康郎

えねるぎいっ亭南駄老